

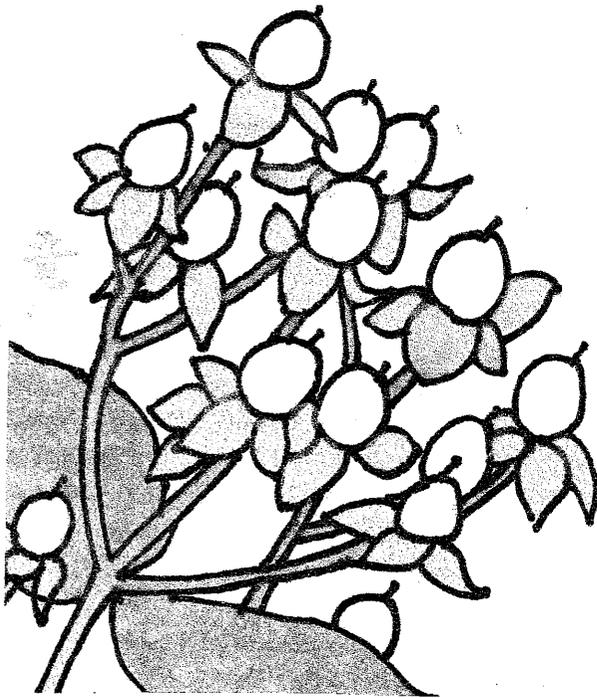
# オリーブの樹

第145号

2019年2月24日

## شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



昔年の夢の  
房に届き  
大寒に  
忽ち春の  
訪れ来たり

### 目次

- P 2 2019年中東の緊張と混迷の脱却を願って 重信房子  
P 4 冬の歌 重信房子  
P 5 独居より 重信房子  
P16 「思い出そう！一九六八年を！！」を読んで 重信房子  
P18 東大安田講堂50年 上原敦夫

重信房子さんを支える会

## 2019年中東の緊張と混迷の脱却を願って

重信 房子

### (1) 覇権再編の攻防

オバマ時代の米国中東外交政策をひっくり返したトランプ政権のために、2018年はイスラエルとサウジアラビアの暴政が続いた。エルサレムをイスラエルの首都として米大使館移転を強行したトランプ政権は、中東和平交渉を破壊し、イスラエルのヨルダン川西岸の永続占領の為の急激な入植地拡大を支持し、パレスチナ人は激しい抵抗運動をしている。さらにイスラエルは「イラン」を口実にシリア内戦に介入し、夥しい空爆を繰り返している。

彼らと共にイラン制裁の音頭をとってきたサウジアラビアは、イエメンでの無差別空爆で人道危機をもたらした。「カショギ殺害事件」でも近代以前の部族・宗派的専制神権国家の姿を世界に晒しつつ、トランプ政権に護られて延命しようとしている。

パレスチナ問題でも、パレスチナ人抜きで会議が彼らの間で動きだした。「イスラエルとアラブ諸国の関係正常化は、パレスチナ問題を関連づけない」とする、パレスチナ人の当事者性を奪う動きである。

しかし、米の中東政策はイスラエルの拡声器と化し、アラブの信任はすでに失われており、新しい覇権が台頭してきた。シリア内戦問題はその象徴とも言える。アサド政権勝利という力関係の転換は、ロシアのイニシアチブのもと、イラン、トルコの新しい連携を浮かびあがらせた。トルコのエルドアンは、大統領制に転じて権力を集中し、サウジに立ちあがる新しい盟主として、中東覇権の再編の要となっている。

トルコ政府の第一の敵は、クルド民族の分離独立運動であり、クルド建国阻止のためには、米・EUとの対決も辞さない。イラクのクルド自治政府がイスラエルと協力したことで、アラブ諸国も人民もクルド人には厳しく、対クルド問題では、トルコ、イラン、イラク、シリアは共通の利益に立っている。

トランプは12月19日にシリアからの米軍撤退を表明し、シリア内戦とイスラム国(IS)掃討で利用してきたクルド人の犠牲の上に、米国第一主義を貫くことを宣言し、マティス国防長官は反対して辞任を表明した。元々シリア内戦において米軍は存在理由すらない。2019年もまた、シリア問題、イスラエル、サウジの動き中心に緊張と混迷は続くだろう。ことにシリア内戦に勝利しつつあるアサド政権がクルド人を自治のもとに統合し、シリア全土を掌握できるかどうか(アサド政権はクルディスタン労働者党・PKKをかつて支援してきた)、また選挙を控えたネタニヤフ・リクードらが、イラン戦争としてシリア・レバノンへの軍事介入、更にはガザ・西岸パレスチナ住民への戦乱の危険が続く2019年である。

### (2) 歴史から辿るアラブイニシアチブ

大掴みにアラブ諸国関係をみると、これまでは英帝国に恭順することで護られて来たイスラーム王政国家群と、「世俗主義」のアラブ民族社会主義政権が対立しつつ相互補完しあってきた。その体制が破産し、再編と覇権の混迷にあるのが現在といえる。

第二次大戦中の1945年3月、英国がアラブ支配の装置として作りあげた親英王政国を中心とする七ヶ国による「アラブ連盟」は、47年のパレスチナ分割決議(イスラエル建国)以来、アラブ諸国の対イスラエル同盟の装置に転じた。冷戦下ナセル革命を当初非難したソ連は、スエズ国有化などで支援を強化し、ナセルのエジプト革命は、アラブ民族社会主義路線を創出した。彼らは反帝反植民地闘争を闘い、アラブ民族主義革命が席卷し、イラク王政を打倒しカシム政権を生んだ。ヨルダンも革命に直面した。その後、王政国家群は保身と自衛のために、「アラブ連盟」の枠の中で「アラブの大義」のもと、60年代以降、ずっと共存してきた。

アラブ民族主義政権(エジプト・イラク・シリア・アルジェリア)は、一党独裁の社会主義・福祉国家として反帝国主義潮流やパレスチナ解放闘争を積極的に支援した。しかし、植民地からの独立以来イスラエルとの交戦状態にあり、これらの国家はソ連と同盟し、保安第一の人民支配を常態化させた。

### (3) アラブイニシアチブの変質・崩壊

89年のソ連・東欧の崩壊は、アラブ民族主義政権の戦略を無効化した。米国主導の新国際秩序で、湾岸戦争〜「オスロ合意」のサバイバルを強いられた。これまでのアラブの一致した包括的和平からPLOがイスラエルとの単独和平「オスロ合意」に転じたことによって、中東全体の和平を停滞させ、また、パレスチナ解放運動に永続的な分裂をもたらした。加えてこの「オスロ合意」によって、占領したままイスラエルは国際社会に「合法性」を得て、経済・技術的発展の条件とした。

そして米国への「9・11」攻撃に対する米軍のアフガン侵略、イラク侵略戦争は、激しい反米闘争を生んだ。イスラム勢力が主導権を取り始めた。またグローバル資本主義は社会主義経済を破壊し、アラブ政権は長期独裁政権と化し、腐敗・縁故主義・人民抑圧が強まった。そこで自由と生存を求めて民衆が蜂起したのが、「アラブの春」と名付けられた2011年の闘いだ。

しかしエジプトでのクーデターと弾圧、バーレーンでのサウジ軍の蜂起破壊が続いた。これに乗じて米欧・サウジ・カタールらは、リビア・シリアの世俗的政権の打倒を企てた。リビアのカダフィを殺害し、シリアのアサド政権をアラブ連盟から追放、金の力で連盟の支配を企てた。アサド打倒に荷ねと武器を注いでシリアを内戦化させ、ISの力を育てた。だがサウジ・カタールらにアラブ諸国を英知も能力もなく、破壊と混迷は拡大した。

つまり米欧は王制国家の野蛮な実情を知りつつ、一緒にソ連社会主義の残滓シリア・アサド政権打倒と、武器の市場として介入した。その結果中東は秩序不全の戦場と化し、住民の難民化を強いた。権力のバランス、共存の装置であった「アラブ連盟」、かつてアラブイニシアチブの対イスラエル問題は崩れ、サウジの無謀な新しいアプローチは、非アラブ諸国、ロシア、イラン、トルコを新しいプレイヤーとしてアラブ世界に台頭させる道を開いたわけである。

### (4) 破綻から再生へ

中東における国家関係の歴史をたどれば、破綻から再生への道は明らかになる。まず「地域大国」による地域の安定・安全保障の枠組みを新たに作る必要がある。イラン・トルコ・エジプト・サウジ・シリア・イラク。地域当事国による政治対話の条件を作るため、国際社会が支援することこそ、新しい安定を作る道である。

米軍がシリア撤退を実行するなら、その条件はより整う。ロシアの主導で行われている「シリア和平会議」をその出発点にできる。こうした地域の枠組みによって、イスラエルやサウジの暴政を抑止することも可能となる。イスラエルがパレスチナに領土返還をすれば、地域安全保障システムの中で平和を享受する未来がありうる。

現在のイスラエル政権は、真逆の道を暴走中だ。だが地域大国の枠組み作りは、イスラエルを統制する力を育てるだろう。もちろん国家レベルの覇権争いは人民の要求を叶えるものではないが、少なくとも戦乱と難民化を止め、住民が故郷へ帰る道筋を作り出せるだろう。

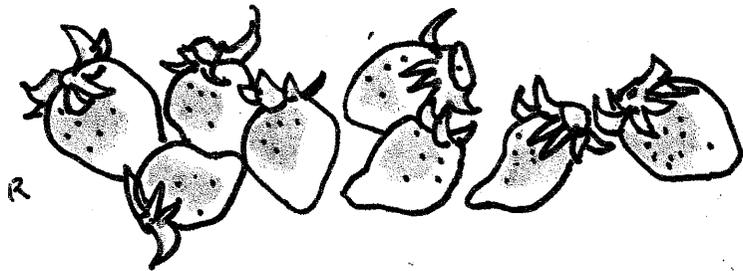
一方、人民の闘いも続く。軍事暴力とバラマキで忠誠を強要する古いシステムは破綻しつつある。昨年5月にはヨルダン全土で政治刷新を求める闘いが広がり、今も続いている。パレスチナへの米・イスラエルの絶望的な仕打ちは、新しい人民の闘いを促している。地域住民の連帯も息を吹き返している。

引き続きパレスチナの苦難と共に立ち、イスラエルの入植・西岸併合に抗したBDS運動は、国際連帯を広げ、中東から米欧諸国で威力を発揮している。日本の市民も昨年12月に「BDSジャパン」を作った。こうした回路を通してパレスチナ・中東の平和を闘い取る道に日本人々も加わることができる。

(2018・12・22記)

重信 房子

秋深し獄窓遙か黄の跟杏蒼穹の空にすつくと立てり  
 オスプレイ頭上を飛ぶか横田より爆音鳴らしつ騒々しい朝  
 巡り来し逮捕記念日十八年生き延びよの声秋雨のむこう  
 十一月尽捨てては拾って来た命あともう少し捨てまいぞひとり独白  
 初夢の掴み損ねた残像を追えば獄窓日輪煌く  
 寒風にキャンプシュフブか経産省白髪とモの旧友らの強気意志あり  
 辺野古汚し土砂次々と広がりぬ海、人、珊瑚、人情殺して  
 ああ同志よ何故留まったのか雪山に卑怯になれない君の過ち  
 歳月は癒し忘却夫々の役割解いて新しき出合い



### 新年「アベ政治を許さない！」を再び

重信房子

11月13日 丁度受けとった地域アソシエーションで安倍政権の「安保法」にそった、南の島の変化や実情を少し知りました。宮古島と石垣島を訪問した報告で、宮古島の現状と自衛隊の配備が進んでいることがわかります。「沖縄本島のように米軍基地が来るというのなら反対だけど、国を守る自衛隊が来るのは反対しない、逆に何もしないということの方が国の責任放棄ではないか。」との島の人の声。でも今の米軍従属の指揮系統下の自衛隊では、有事はもちろん有事でなくても共用の米軍基地化していくでしょう。「防衛強化」が様々な形で進んでいるのを目の当たりにする報告です。また、北民連の地域選挙の話も興味深く読みました。「韓国における社会的連帯経済」の話、協同組合の広がり、市民組織が地域の生産と消費を調整するなど、土曜会でWさんが報告していた内容と共通しています。

11月15日 今日は例年より十数日遅く初霜が下りたとラジオが伝えています。例年より暖かい小春日和が続いていて、今日の快晴は隙間の富士山もきれいです。もう作業衣木綿（パジャマ）の上にフリーズジャンパーを羽織ってもいいかな……と思いつつ、そのまま作業衣だけで屋上に出ると風があつて寒い程でした。でもウオーキングしているうちに身体が熱くなります。

新聞では12日のイスラエル特殊部隊の作戦によってハマス幹部らの殺害からハマス側が反撃し、それに対してイスラエルは待ってましたとばかりの空爆。エジプトの仲介で停戦が成立したことに抗議して、国防相リーベルマンの抗議辞任とか。リクード・ネタニヤフ首相より右の「大イスラエル主義」がトランプ政権成立以降、益々強硬路線を主張しています。辞任から総選挙になっても労働党などの「二国解決派」の「シオニスト連合」などの躍進は期待薄なのでしょう。中東ではトランプ政権、サウジ王政、イスラエル政府による反

イラン対決がパレスチナ問題をアジェンダから遠ざけ、来年もイランをめぐる政治的・軍事的緊張が広がりそうです。「フォーリン・アフェアーズ11月号」にはマイク・ポンペオの「トランプ・ドクトリン」が巻頭論文ですが、「これまでのトランプのアウトロー国家（朝鮮・イラン）対策が奏功している」として、イラン制裁強化によってイラン民衆の高まる不安に米国は連帯支持しイランを体制変革させることを目指すとしています。ポンペオによれば、レーガンがソ連に対して勝利したように「道徳的対決策」に倣い、米国の主張している条件に基づく交渉へとテヘランの指導者たちを引っ張りだすとしています。この國務長官の言う通り「反イラン」で中東に対決ラインをつくり、実はより大きな果実としてイスラエルとアラブ諸国の交流から和解を育て、アラブ諸国の公式なイスラエルとの関係正常化を育てていく腹です。イスラエルの占領が続いたままで、そんなにうまくいく筈のないことですが。

11月19日 夜のニュースで、日産のカルロス・ゴーン会長逮捕。特捜部は国民的関心事の財務省改ざん問題に動かなかった割に、一民間人に周到に手ぐすね引いて羽田で逮捕には、大きな違和感です。ゴーンの強欲さを擁護する考えはないですが、「司法取引」は、益々日本の警察国家化・検察の「正義の独占」を確立したことを示しています。会社の一部と権力が共謀して、排除したい人物を司法取引で排除し、会社は安泰、というモデルがこれから増えそうです。「別件逮捕」の名人たちですから、やろうとすれば「司法取引」何でもありで、陰險な権力の恣意的民事介入が今後とも続きそうな日本。ゴーン会長の拘留がどうなるのか、日本の遅れた司法のシステムを世界に訴える良い機会かもしれません。日本は、否認すれば公判まで長期拘留されることなど、世界のスタンダードと大違いですから。

11月20日 新聞でカルロス・ゴーンのことを読んで、なるほど、これはクーデターだと思いました。西川社長は、これまで一緒に虚偽記載に関り、あるいは目をつぶってきたのに、日産の方針の違いに収拾できないので、日本の権力を使ってゴーンを退治したのです。真意は、ルノーに日産が益々合併され、下請け化されるという危機感だったのでは……と思います。

11月21日 今日は八王子で毎年恒例だった国府弘子さんと早稲田桜子さんジャズライブコンサートがありました。いつも梅雨の季節だったので、こちらではイベントなしなのかと思っていましたが、昭島センターでの初ライブです。でも八王子の講堂ではわずか数メートルから十数メートルの距離で動き回って肌感覚で楽しめたのですが、昭島センターの講堂は少し大きめですが、2階がすごく高い位置にあり、そこから観賞するので、なんだかびっくりでした。ステージ台を使わず平場で演奏してくれているのですが、こちらはプラスチック板越しの高い位置から。八王子の時と違います。でも、「枯葉」からビートルズナンバー、それに新しい曲もバイオリンとピアノの競演を楽しみました。オリジナル曲の「ノスタルジア」と「スターランド」が特に良かったです。1時間の演奏を楽しみました。

11月22日 今日の空は昨日の快晴から転じて暗く、降りそうな寒い日です。今日はフリースのジャンパーを着て屋上に行く準備をしていたら、10時過ぎN和尚の法要面会で、フリースを脱いで面会室へ。多忙の中感謝！



一般の友人が面会不許可なので、できるだけ月一回法要面会に来て下さるとのこと。申し訳ないですが、ありがたいことです。今月には遠山さんの御遺族にも会われるとのこと。体調のこと、土曜日は12月1日ですが皆も元気にしていることなど話してくださって、いつもニコニコ、お坊さんの包容力を感じます。(昔は目の色変えて学園闘争中だったことも……！)

今日の新聞ではトランプが20日「サウジと共に立つ、米国第一」というタイトルの声明をだし、皇太子はカショギ殺害を知っていたこともありうるが、サルマーン王も皇太子も知らないとして強く否定しているとして「いかなる場合もサウジは米国の不動の同盟国であり続ける」と皇太子の追及をしない声明。石油でごっそり金だけ有って、統治能力も行政・判断力もない皇太子（ムハンマド・ビン・サルマーン）が権力に居続けることはもう無理では？ 米国やユダヤ資本やマッキンゼーなど、米国政府のみならず米民間企業によって成り立っているムハンマド・ビン・サルマーンは構想です。米が無理やり支え続けても、どこまで上手くいくか疑問です。

11月25日 今日の新聞に「星野文昭さんを自由に」の新聞全面広告！すごい。紙面は不屈の力の結晶のよう。感激しました。一度「さわさわ」が表紙の絵を星野曉子さんから許可を得て、載せていたのを思い出します。一刻も早い釈放をと、心から連帯します。

毎日検察側の一方的な「ゴーン犯罪」の悪徳手口が報道されています。私自身がそうであったように「容疑者」には全く別の論理があるはず。逮捕されて「司法取引」に応じるならともかく、(司法取引そのものは認めないけど) 会社の共謀してきた一部である西川氏が進んで権力に頼って内情をぶちまけて、会社の方向を阻止しようという図。世界は日本の司法のあまりの一時代前の管理システムにも驚いていることでしょう。弁護士が取り調べに同席できない、否認すれば保釈しない報復主義、拘留所の横になることも許さない朝から夕方までの点呼までの定位置の座り義務、教え上げたらきりのないことですが、これを機に改善されることを願っています。

11月27日 今日は11月コーラスの日。「365日の紙飛行機」(編集室註：数年前のNHK朝ドラ「あさが来た」のテーマソング) というAKB48の歌と「古時計」「花は咲く」の3曲を思い切り歌いました。新聞にもあちこちの紅葉の写真が載っています。

今日の新聞で「統治行為論」廃止の意見が載っていて、まったく同感です。これが憲法を骨抜きにしているからです。「統治行為」という概念を消去すべきです」と宍戸常寿東大教授。あの砂川闘争の無罪判決を覆した論理ですが、いま岡山地裁で係争中の公判でまた国側が出してきたとのこと。国会召集を首相が3か月以上放置したのは憲法53条違反」という原告に、被告の国は「臨時国会の召集決定や召集時期の判断は高度に政治性を持ち、裁判所の司法審査権は及ばない」と主張しているとか。ソフトな独裁が許されていくような空気です。

今日珍しい鮮を発見しました！「晩秋にはぐれ一匹油餅獄の六階仰向けに果てたり」不思議です。今頃、今年初めて鮮を見ました。回廊でそのまま冬中天を向いているのかと思ったら、夕方、片羽だけ残されていました鳥かねずみか何かか食べてしまったのか？ これも不思議。7階の獄窓の外の回廊の三和土です。

12月7日 今日こちらも18℃と暖かな外気、ウォーキングに汗かいています。今日は色々本が届き12月の読書にありがとうございます。隼さん「日本の原発問題の現状と反原発運動」書き込み入りありがとうございます！専門家木原さんの説明を学習しています。「キンカン行動」寒くなりますがどうぞ元気で！連帯しています！この文の中で、行動で獲得した成果として、原発立地にも脱原発派がいて、地道な訴えの中で対話から次の行動へとつながることを語っています。そういう人々と「今、脱原発・反原発は世界の趨勢になりつつあり、更なる世界の原発の全廃を！」と訴えていて、その内容に説得力があります。そういう地道な行動の成果で、今日の朝刊に一つ。「小金井市議会が辺野古移設反対の意見書案可決」と多摩版ですが大きく出ています。9月共産党と足並みが揃わなかったものですが、6日小金井市議会(定数24)賛成

13、自民・公明など反対10で可決されました。「辺野古、ヤマトに問いかけた」「陳情した沖縄出身の米須さん30才」県内外のウチナンチューでつくる市民グループは「沖縄発新しい提案」を出版し「辺野古新基地建設を止め、公正で民主的な解決を求める」と全国の議会に陳情することを提唱している一環です。米須さんは「全国の人が当事者意識を持つことが必要、問われているのはヤマトの民主主義だと思っている」と。まことにその通りで、学びつ次の議会へと増えることを願います。良い闘い方ですね。

12月11日 今日は早めのクリスマス会。第一部(13:30~14:10)と第二部(14:20~14:40)です。第一部はカソリックの浅草教会の神父さんのお話で、神の愛を語っておられたようです。聞き取れませんでした。ちょうど官本の「新約聖書入門」を借りていたんで、その内容を思い出しつつ聴いていました。それから「聖夜」合唱。第二部はカリタス聖歌隊の讃美歌などの斉唱・合唱です。聖歌隊の人たちの作った「君は愛されるために生まれた」や「いのち」の清々しい歌声に多くの若い人が泣いていました。後悔したり感じることも多かったのでしょうか。「オー・ホーリーナイト」「あめのみ使い」「ハレルヤ・クリスマス」、最後に「花は咲く」を歌ってくれました。劇場2階席から観賞といった場所です。クリスマス会に合わせて、夕食も早めのローストレッグとケーキ(ヤマザキの五つにカットしたロールケーキ)が出ました。まだ食べきれず、机の横にあります。

12月12日 朝から雨。やはり寒い。でも、シモヤケいっぱい八王子と違って空調システムに守られています。

午前中に届いた資料の中にAさんからの経産省前の「テント日誌」では、米国から来たIATA一行が経産省ビルから出てきて、「No Nukes」の横断幕の写真を撮っていたので、英文パンフを渡すと、カンパして握手を求めてきたとのこと。私も厳寒中の活動に連帯しつつ、どうぞ体に気を付けて！

「土曜会」の12月報告もありがとうございます。報告は辺野古・沖縄基地問題・グローバル社会的連帯経済

フォーラム GSEF のビルバオ第3回大会の W さんの報告も。丁寧な N さんの資料 (沖縄) と W さんの資料、学習します。ビルバオ大会後「社会的連帯経済」のモデルや、モンドラゴン企業組合、ゲルニカ、バスク民族党本部訪問も行われています。欧米は各地で新しい波が生まれようとしている感じがします。日本は? と考えつつ……。

12月17日 資料の中に、初めて「監獄人權センター」の「ニュースレター」を見ることができました。(長く獄中に居たのに読んだことがありませんでした。) その No93 (2018 1/10) のニュースレターに海渡弁護士の「東日本矯正医療センター内覧会報告」が記されています。「はじめに」で、地理的条件や収容施設の概況に触れ、「施設の概要と収容規模」更に「居室と所内の環境と眺望」「医療内容の改善と医療の独立性の向上」について記されているものです。当所に収容されている一人として、この海渡弁護士の内容に対応して記しておくべきと思う点を記しておきます。

私は 2010 年 9 月 29 日、東京拘置所から八王子医療刑務所に移監されました。(2008 年 12 月、大腸癌発見で 2009 年 2 月、大阪医療刑まで手術のために移監され、手術後戻り、その後東海で抗癌剤治療を続け、2010 年 8 月に最高裁で刑が確定) 八王子では、抗癌剤治療・開腹手術 (子宮癌) PET 検査 (外の病院での PET 検査) 開腹手術 (小腸癌・大腸癌) 3 回を経て、2012 年 7 月腫瘍マーカーが初めて正常化しています。そして、2018 年、東日本矯正医療センターの開設に伴い、2018 年 1 月 14 日に入所しました。その後大腸癌で 2016 年再び開腹手術をしています。私の居室は、海渡弁護士が内覧会で見た「ルーバー付きの窓」ではありません。(幅 130cm の窓で、5cm 程開けられる。) 設備について言えば、八王子でも CT や MRI、透析装置もありました。でも、建物の老朽化で、患者も医師・スタッフもシモヤケ状態のとても寒いものでした。

新しい施設は、CT、MRI、透析装置は更新されて最新のものとなり、一度にこれまでの何倍かの患者に対応できるようになっています。眼科も器材が一新され、これまで外部でしかできなかった視野検査 (緑内障チェック) の機材も導入、各

科の機材・スペースは最新の市民病院並みか、それ以上と思えます。すべて電子カルテとなり、患者のプラスチックプレスレドのデータ記録を読み取って管理しています。ただ、放射線関連施設はないようで、PET 検査はできません。受刑者 (患者) は、施設について情報提供されませんので、経験や推察、資料学習などで知るのみです。そのため、居房・運動・診察以外の外の園芸のことは (梅の苗木のこととか)、海渡先生の報告で知りました。患者の建物内の環境は驚くほど快適に改善されています (八王子の自然の中で、走ったり運動する喜びを失ったのは大きな損失ですが)。

第一に空調によって、厳寒の凍傷から逃れられ、また、蚊やダニなど夏の酷暑もなく、その点では天国のような気分を味わっています。第二に、市民病院並みの病室の設備 (寝具類、これまで 10 kg もある古い布団から、軽い人工羽布団へ) 週一回の布団カバーやシーツの交換。病室は大きく、幅 2.3m、奥行 3.6m くらいでベッドごと扉を通ることができます。(ベッドも最新のもの) 私物管理のロッカーは幅 28cm、高さ 85cm、奥行 45cm の細長い事務用ロッカーで、中には仕切りはありません。その他に小さな棚があり、日用品や広辞苑を置いています。椅子はなく、よく病院にある一本足のテーブルで、ベッドに座って書きものをしています。(患者がベッドで食事をするテーブルです。) 第三に清潔な浴場 (個人用と 4 人用。4 人用は広い湯舟に熱い湯が満々。八王子はぬるく、寒くて湯舟に入れなかった)。第四に、運動は 7F の半屋上の一部スペースを使っています。8m x 5m くらいか。自然芝で、そこにノグシ、カタバミなどもまぎれて、可憐な花を夏には楽しみました。第五は食事です。社員食堂かファミレス並みに盛付も工夫し、PFI 方式のため、食器から (ふた付きのきれいなもの。八王子のプラスチックと違って) 食欲をそそります。メニューは 35 日 (5 週) 毎に繰り返すようですが、それも材料のせい、時々変わります。味もまあ、社員食堂かファミレス並みです。第六に、処遇は八王子と基本的に変わりません (日課・規則・罰則・指導・検閲など)。検閲 (手紙などや書籍) は、八王子より厳しく、自著も 70 年代・80 年代のものも不許可。年賀状も「〇〇さんよろしく」も

不可でした。ただ規模が大きくなり、女区は 6F ですが、フロアを管理する女性の制服の人以外は、用事がない限り男性の制服の方々に会う機会はなく、病院の病棟そのものです。

海渡先生は患者 (受刑者) が自然に接する機会が失われないよう配慮されているのを感じた、と記されていますが、患者から見ると、屋上の運動場も病室も、居房の外の回廊は斜めの 50cm 幅のプラスチック板の柱で、外がみえないようになっていて、光は入りますが、ちょっとした隙間 10cm くらいから外が見える程度です。八王子から来た分、やはり庭も見えないし、地面を歩けず、見えず、は辛いです。今は南向きの舎房にいて、隙間から昭和記念公園西端の紅葉が、プラスチック柱の間の 10cm くらいから見え、太陽も仰げるのがとっても嬉しいです。第七に医療ですが、フロア入口付近に診察室と看護師のスタッフルームがあり、主治医や担当医が主張して来て、診察を行います。パソコンモニターが常備され電子カルテに入力しつつ、検査結果をモニター画面に呼び出し、立体画像やグラフ化したデータなどで、説明してくれます。

八王子時代から主治医は変わりません。医師はとて丁寧で信頼しています。他の医師・看護師も皆、辛抱強い方たちと見受けられます。どの患者にも積極的に患者を治療しようと意欲的ですし、概ね患者たちは満足しています。もちろん私もそうです。制服の方々も、規律は厳しいですが、みな丁寧で親切です。他の刑務所にある非人間的な扱い (泉水さんの懲罰のような) は、見たり経験したことはありません。アジア・世界に対する日本のモデルとして、このセンターを重視していくのですが、この水準において、日本全国の刑務所や医療施設が改善されるよう願ってやみません。尚、このセンターの「刑事施設視察委員会」は、まだできていないのか、何も連絡はありません。海渡先生の要望事項にあるように、豊かな自然あふれる環境が、年と共に整備され、それが患者にも味わえるようになることを望んでいます。

(八王子では男女運動会もありましたが、昭島では患者は見学もできませんでした。) 以上、海渡先生の報告を読んで、患者側からの報告です。



12月21日 関西 BDS JAPAN の関西での発足集会には 100 人を超える人の結集だったと I さんのお便り。講演に立ったヌーラ・エラカドさんは「BDS は政治政策運動ではなく連帯の運動、パレスチナにはもうこれしか残されていない」と発言されたのが印象的だったとのこと。

12月22日 冬至。大好きな日。これから希望が育つように陽が長くなるからです。夜 7 時遠くでピストルのような連続音。真暗な空に次々ときれいな花火が上がっています。7時から5分位? 12月8日にもあったけど何だろう。方角は府中や多摩の方。競馬場か百草園、高橋不動の催しか……。何か嬉しい贈り物、受け取りました。

12月23日 今日 7 時の NHK ニュースと共にドドドーンと美しい花火。まだ天皇バースデーの第一ニュースをやっているうちに花火は終わったので、5分位か? きれい! いつも同じ場所から上がります。あの辺りは多摩川の河原? 何があるのでしょうか。

12月26日 今日で今年の最後の便り No462 を書いて、明日送らなければなりません。12月28日が仕事納めですが、教育矯正日の金曜に当たり休業日です。そのため発信の今年最終は明日 27 日です。今年の 1 月 14 日に八王子から昭島の医療センターに移監され、良い環境となって (自然に恵まれた素晴らしい八王子の庭は失いましたが) 夏にへこたれず (ちょっと感染症になったけど) 冬に身構えずに過ごせて、快適な条件の中で新年を迎えようとしています。(去年は年末年始のチームも壊れて、八王子はまるで冷凍庫でした。) 泉

水さんら友人たちの厳しい環境を思うと申し訳ないようです。早く受刑処遇、司法制度の改善が始まる新年となってほしいです。

1968年から50年目を終えて、1969年50年目の新年、東大闘争、救援連絡センター結成も半世紀です。かつて自由な表現の場であったキャンパスやストリート、駅の広場は管理され、立て看も許されず、街では不審尋問される警察国家化された日本。国家主義の強権は異議申し立てを予防粉砕する装置や法制度を次々と作り出しています。そして何だか読んでいると広告では、日本がいかに素晴らしいかと力説することの多さ。日本ってこんなに独善的だったか……、むしろ自信のない昔の日本の方が学ぶ姿勢があったのに。勘違いする若者が増えませんかよとヘイトスピーチのあれこれが気になります。

今日の新聞で（わが高校の下級生と、どこかで書いていた）辛淑玉さんの中傷に賠償命令の判決で、辛さんの主張を認めたとあり、一つ喜んでいきます。立ちほだかる強権の壁にこうしてあらゆる分野で合法的に真っ当な意志を通していくことの重要性を実感します。

世界は米中の緊張、暴政王子MBS（ムハンマド・ビン・サルマンのことを欧米ではMBSと略称）は米にも受け入れられるため、OPEC脱退を画策らしい。OPECはすでにカタールが抜け、サウジが抜ければ崩壊し、米・サウジ・ロシアが石油低価格でももちこたえ、イラン・イラク・ベネズエラなどは打撃を受けるとの予測。2019年シリア内戦の解決がどう進むか、アサド政権がクルドとエルドアンという対立要素をどうロシアと調停するのか、選挙を控えたイスラエルが、「イラン」を口実にしてシリアやレバノンへの戦闘をエスカレートするのか、ガザ空爆虐殺をまた始めるのか注視したい。ネタニヤフは12月8日TVで「2019年総選挙までにサウジアラビアとの関係を正常化したい」と述べる程、MBSのイスラエルとの共同（経済・軍事技術・諜報）は進行中です。MBSはかつてのサウジ王室の弱者への喜捨といったイスラム精神より、何でも軍事的解決に持ち込み、上からの命令方式。2019年世界は益々リーダーシップのない弱肉強食の倫理崩壊への危険。日本もまた天皇代替わりとオリンピックによる上からの

支配管理の破綻も生まれそう。真っ当な事をへこたれずに、横に住民と手を結んで一つ一つ闘うこと、陣地戦の時代です。その一つとして地方選や参院選も前向きな力が育つことを願いつつ、今年の便りを締めくくります。とは言ってもこれから年末年始まで獄のスケジュールは続きます。

今日は12月の花、真紅のアネモネ（ベカーのアネモネを思い出す花！）純白のアネモネ、パープルのアネモネの3本とキリンソウの蕾の枝が届きました。正月まで花は持ちそうで嬉しいです。今年も皆の支えの中、対話を描きつつ日記を記して来ました。年を越えるごとに、友達がいること、そのありがたみをしみじみと実感しています。こんな環境にある私に、へこたれずいつも励ましてくれるみんなに有難うを伝えます。来年もよろしくお願いします。どうか良いお年を！健康でいて下さい。私も再会の希望を力に、また頑張ります。ありがとう。房子

12月28日 今日、ここ昭島医療センターの仕事納めです。ラジオでは、寒波が列島を襲い、各地で雪が予想されるとのこと。ここは8℃からマイナス2℃の予想気温。でも空調なので、八王子に居た時に師走にはできる凍傷もなく過ごしています。昨日は屋上運動今年最後に、サーモンピンクの陽に輝く、きれいな白富士を見納めました。

年々、天災・人災が増えた2018年が終わろうとしています。昨日は二人の死刑が執行され、15人も国に殺される年になりました。死刑執行の数にも、安倍強権政治が示されました。年を追うごとに安倍強権は深まり、沖縄に対して、更には対朝鮮、オリンピックと、様々な理由で防衛費を拡大し、熟議なく異論を封じてやりたい方向に進んでいます。モリカケの政治責任もとらず、このまま、ロシア平和条約だ、天皇代替わりだ、オリンピックだと、あたかも安倍首相の成果のように見せかけて、地方選、参院選をのりきり、改憲シフトを完成させようとしています。一票でしか表現できないもどかしさのために、大多数は諦めているのですが、まさに正念場の新年、一ミリでもアベ政治を許さない行動を！と願わずにはいられません。

今日は、家族の便りも年納めに届き、嬉しかっ

たです。こちらは去年の冷凍庫のコンクリートの房から逃れて、安心な冬を迎えています。

12月31日 今年の最後の日、Mさんの手紙に「今年の年越しは『平成』という年の最後の年越し。最近つくづく思うのが、時間の経過が早すぎるということ。昭和・平成、あつという間に新しい世の中が5月から始まりますが……、期待半分不安半分です。でも、いつでも前を向いて、自分らしく正々堂々と嘘のない生き方をしていきたいと思っています」と彼女らしい、まっすぐなひたむきさが込められていて、私も刺激を受けています。

日本は、新しい天皇、オリンピックと宣伝されていくうちに、どんどん政権の思い通りのやり口が実行されています。改憲阻止はなんとしても！と思う新しい年です。

中東では、米軍のシリアからの撤退の流れに呼応して、これまで湯水のように武器と金でシリア・アサド政権打倒を主導してきたサウジとUAEが、アサド政権と関係を復活させて、反イラン包囲を狙っています。父親のハフーズ・アサドは、反帝反植民地主義者で、イラン革命後、一貫してイランを支持してきました。イラン・イラク戦争時を含めて、世俗主義ながら「アラブ対ペルシャ」や「スンニ対シーア」に与せず、イスラエルに対する態度をメルクマールとして、イランと同盟を維持してきました。その路線は息子も踏襲しています。また、クルドの人民防衛隊は、対トルコ戦に備えて、アサド政権と組み、マンビジュをアサド政権に引き渡し、新しい動きはアサド政権に有利な流れをつくっています。もともとアサド政権は、ずっとシリア内クルドを支援し、クルディスタン労働者党（PKK）も支援してきたのですが「反テロ」攻撃の中で、カルロスやPKKのオジャランらも国外にでてくれ、と要請した経緯があります。その結果、オジャランも逮捕されましたが、「自治」で折合いをつけられないわけではないでしょう。2019年、中東もまた、トランプに、ネタニヤフに、金満サルマンに抗して、国も人民も闘いを続けるでしょう。サルマンらがアサド政権をアラブ連盟の資格から追放し、これまでアラブ連盟の中で調整してきた「アラブイニシア

チブ」を宗派的なものに変えた結果、非アラブ主体のロシア、イラン、トルコのイニシアチブが登場しました。サルマンらは取捨がつかなくなって、再びアラブ連盟にアサド政権を招き入れ、「反イランアラブイニシアチブ」を復活させようと言論んでいるように見えます。アサド政権も強権で、自国民に行った蛮行は非難されるべきですが、サウジ等の、常識では考えられない武器の流入が、内戦化を招き、非和平的に広げ、住民の難民化の元凶をなしたのは事実です。そしてアサド政権の世俗主義は、自国民反対派を弾圧しつつ、少数民族や左派の砦として今もあるのが現実です。

大晦日、世界を見渡し、日本を直視し、狭い房ながら新しい年の流れを想像すると、胸躍ります。そしてまた、親しい友人たち、家族、遠くにいる友らがどんな年の瀬を迎えているだろうか……と、顔を思い浮かべて語りかける一年の区切りです。みんな、ありがとう。

2019年1月元旦 新年のご挨拶を申し上げます。今年は「初日の出」をちゃんと眩しく見ました。良いことがありますように！ひとつでも人々にとって良い政治を！と願わずにはいられません。

昨夜は夕食時、小さなお椀に年越しそばがほんの少し。それから祝日用菓子3点（ポテトチップス60g、トーハンキャラメルコーン80g、ヤマザキクッキー9枚入り）配給。夜は紅白と年越しで0時15分まで放送延長です。どの歌も耳に残らず、読書と就寝合図の滅灯、ベッド入りの9時以降はウトウト。0時に窓辺でインターナショナルを。

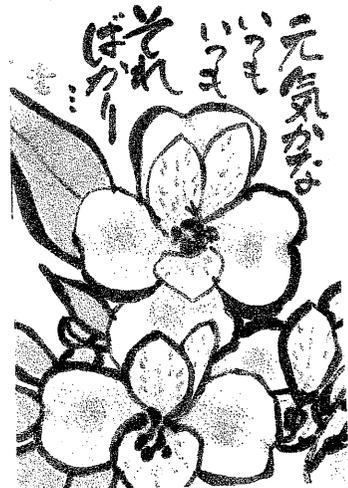
朝は気持ちの良い元旦です。例年は、朝にお節料理が箱入りで届くのですが、ここは日常的にキッチンと料理メニューが施されているせい、それとも手違いか、昼食後に「明日回収」という、これまでにない簡素なパック入りの「お節料理もどき」の、プラスチックパックに、野菜煮、黒豆、ソーセージ、膾などの入ったものが配られました。えっ？ というものでしたが、食事は良いので満足です。朝は珍しく、教の子。それに鶏肉スープ、3が日は麦なしの白飯です。昼はブリ、夕食はチーズ入りハンバーグ、サラダ、スープ、抹茶水よ

うかんの小さなバックです。みんなからの年賀状、ありがとうございます。嬉しいものです。

1月2日 初夢、楽しくて目覚めたのに思い出せない！と、まだ明けぬ暗闇の窓辺で、雨の燃えるような赤が、群青色の空と溶けあつて何とされない。そして、群青色の明けの明星の隣に新月近い月が煌き、まるで砂漠の月のよう！トルコやアルジェリア国旗を思わせる☆形です。良いことのある新年を！と祈りました。“格子越し暁闇に煌めく明星に新月迎える月が寄り添う”

1月10日 今日は新年の初診察。去年12月にまだ数値の結果が出ていなかった血液検査での心機能の数値、曲線グラフにしたものを示してくれました。少しまだ数値は高めでしたが夏から比べると良くなっていました。N和尚歌集「大正行進曲」月光57号ありがとうございます。また、新春祈祷会法要に来て下さるとのこと、感謝してお待ちします。「泉水国賠つうしん」で泉水さんの新年の挨拶と昨年10月22日の名古屋地検結審の報告を読みました。全国から47人が水田ふうさんの呼びかけに応じて傍聴席を埋めていた様子、弁護士も泉水さんともどんなに心強いことでしょう。今年泉水さんは82歳を迎えますが、元気な様子。ふうさんの12月25日の面会の話では、ソフトボールで肋骨を折ったとか……でも、2月4日の判決が何よりの力をくれること願っています。

1月14日 送って頂いた福島泰樹歌集「うたで



描くエポック大正行進曲」を読んでいるところだ。激しい追憶と哀切の歌の数々に何かを突き付けられて己を思わず問うような思いに駆られつつ読んでいます。序の「大逆の歌」から白秋を歌う「鶏頭の歌」、野枝や大杉、辻潤らを歌った「万物流転の歌」、和田久太郎や大杉の友情の友らを詠んだ「白屋襦袢の歌」や「パナマ帽の歌」など、著者は「思えばこの二年数カ月を私は大正という圧政の冬の時代を激しく抗い、活き活きとして闊歩する先駆的庶民、画人、文人、芸人、アナキスト、男や女たちに歌を作るという行為をもって向き合ってきた。一首をなすことによって、おのれの生を倍加するほどのエネルギーを得た瞬間もあった」と「跋」に記しているように、熱量が溢れた歌の数々で、それを一首ずつ好きな歌をもぎとると、その通史の意味を失うのではないかとと思わせる歌の数々です。

著者はこの人々と歌で向き合う中で「歴史とはそれを意識する人々の中に常に現在形として在り続ける。それが一人称詩形にこだわり、歌を作り続けてきた私の実感である。」「存在と時間が織りなす魂のリアリズム」がためらいなく現在形で書くことを可能としたとも述べています。歌は現在を鋭く直視し、比較し、不甲斐無さに憤慨し、批判しているのは間違いありません。その分突き刺さるのです。そのまま読まないと一首一首の関係性や情熱、憤りが伝わらないのですが、いくつか好きな歌を記します。とくに菅野スガの歌がいいです。

菅野スガ二十九歳中庭に白い薔がただ顔えてた  
天に向き淡くひらきいたりしが風に送られ散ってゆきなき  
踏まなければならぬ階梯ならばよし獄窓に零れこよ朝のひかりよ  
淫売ニモ紡績女工ニモナラナイデスダ、寝棺ヲ希ムト調書ハ詰セリ

著者が幸徳秋水を詠んだのもあります。秋水が明治43年11月獄で脱稿した「基督抹殺論」に対して“さようなら”の一語にこめた億い出の千万無量の感慨なるを”他に人物と向きあいつつ詠んだ他の歌を切り取って並べることになりますが、例えば“昂然と顔つきあげて立っていた赤旗風に

震えている午後”(これは渡辺政太郎の葬儀に和田久太郎が赤旗先頭に革命歌を歌いながら進んで行く様が想起されます。)“大川は哭いているのか一切を呑み込み夕陽の中に没せり”

“みちばたの柘榴の皮はこの俺を嘲笑うための真赤な舌か”

“顔腫らし立っているのは新兵が一銭五厘のそよ吹く風か”

“この俺は誰かと問えば泣きはらした日のように散る白い花びら”など、哀切な抒情に響く歌もいくつもあります。時代は常に現在形で進むことを実感しつつ、何故か私はそこに「連赤」の友が連らなって浮かびます。

1月17日 今日午後、再びまた、検閲の指導。Yさん宛てに、Y先生に哀悼の意を伝えてほしい、という一行で「～伝言してください」とか「伝えてください」は不許可で書き直し。八王子では、一、二行の短い伝言は許されたのですが、ここでは一行でもダメだ、とのことで書き直しをして「伝言してください」の言葉は消しました。今後は、一行でも、伝えてくださいとか伝言という言葉は使えませんが、今後はそれもなしに、抹消や禁止もありうるかと通告。不適当な部分の抹消で、黒く太く消されるのですが、それを避けるために書き直させるわけです。勿論、規格外なら「抹消」はあると思いますが、「禁止」とは……。脅され権力を誇示されたようでびっくり。「禁止ですか?! どういう場合に禁止ですか?」と尋ねると、「例えば、このYという人物が犯罪行為があれば禁止しますよ」と言うので、あまりに無関係な返答に「それは飛躍ですよ。犯罪と今の書き直しの禁止と話が違うでしょう? 書き直しの抹消はよくわかります。でも、そちらの言った禁止は脅しではないでしょうか。私には、そう聞こえました」と言いました。脅しではない。自分は国民の支持を受けて、こうして矯正を行っているので、民主主義云々と、話が大きくなりました。それは国民の「支持」ではなく、「付託」と言うべきでは? と言いたくなったのですが、失礼かと。こういう時、女区担当責任者が同席しますが、この刑務官は女区の立ち合いを入れられません。一人同行してドアを閉めてしまうので

す。これまでにない新しい経験をしています。フォーリンアフェアーズ No.1 と新春討論の興味深い人民新聞を受け取りました。感謝!

1月21日 週が明けて午前中、運動から戻ったところに入浴なのですが、その前に「引越し」を通知されてしまいました! 今まで南向きで、存分に陽が房に届いていたのです。そして今日は満月を捜そうと思っていたところでした。まだ新年から月を見つけていないので、今日こそ! と。作業していると、時間を忘れて集中してしまい、昨日も逃しました。1月21日、今日の月の出は17時1分。18時～20時の間に捜そうと思っていたのです。月齢は15.1、満月です。北側は入ったとたん、寒い! 窓はこちら開いていたせいでしたが、でも、閉めても2度くらい違うとみんなが言う通り。しかも、プラスチック扉で、何も見えない……。前の南の房なら、西端の昭和記念公園の桜が見えるはずなのですが、3か月は引越しなしで、この北側です。

Yさん、元気そう。高校時代の友人・仲間が認知症と知らせてくれました。早くも……。彼は高校も大学も一緒に、私が学生運動を始めたころ、創価学会ファミリーで、新学同に加わって、その頃は創価学会も安保反対でした。貸しビルとか、いろいろ活発に商売上手な彼が……。もちろんYさんは反対に元氣印。もう市議8年。今年も選挙頑張ってください。

1月23日 今日は1年に一度の眼科検査があり、新しく視野検査の機械が導入されたため、視野検査も受けました。2月に眼科医が来て、結果を診断してくれるとのこと。86歳のAさんから頌春のお便りが届きました。反戦・反核・反差別・反権力に残生も尽くす覚悟ですと、力強い字です。短歌「無人島」主宰で、今も階級性ある短歌を指導しておられます。前田先生の寒中見舞いでは、今年は刑事訴訟法が施行されて70年、「取り調べの可視化」が初めて法に基づき実施される元年、ずっと刑事司法改革に取り組んでこられた先生は、それを集大成の場として尽力するとの信念です。渡辺先生はどうしておられるでしょう。近くなので国際法務センター一見に来られるでしょうか。

Iさん、暖かい日差しに鉢植えも外に。友人のくれた水仙と梅の枝で香りがいっぱい。梅の蕾、日々膨らんでいるとのこと。私の部屋の紅葉の一枝、あまり長持ちしているの、そのまま飾っていたら、新芽が緑に出てきました！ とってもうれしい！ 資料ありがとうございます。Uさん、同封物は来週ですが感謝。珍しいUさんの一句、「起きなさいぬくぬくごはん寒たまご」みんなみんな元気そうです。

1月24日 今日N和尚の新春祈禱会です。寒い中感謝します。

「風邪召した僧侶の友はマスクのまま新春祈禱会法華経朗誦」と面会室で首巻れました。ここでは3月まで面会者はマスク着用がルールですが、N和尚は風邪を引いたとのことでしたが、朗々と通る声で読経して下さいました。30分の面会のうち半分くらいは読経などで学習し、その後話が少しできます。私の方からは面会が毎月許可されないことも有りうると告げられた点を伝えました。「そうですか、その時はその時で」と和尚は泰然としています。Tさんの便りでも「僕たちの気持ちを代弁してぶつけられるのはNの存在ですから、僕たちも彼の行動を全面的にバックアップしたいものです。」と面会法要にエールを送ってくれています。

3月には遠山さんの命日（発見された日を命日として3月13日）に近い12日に御遺族とクラケンら現思研の仲間たちと法要が執り行われるとのこと。時間がかかりましたが昨年高原さんから遺族とN和尚の面談が叶い、以降親しい交流が育っていること嬉しい限りです。私も遠山さんを歌に詠んで「三月哀歌」を送りました。

Kさん資料ありがとうございます。自分も内容を忘れていた70年の獄中手記や、内容は覚えている連赤事件の意思表示もあります。週刊読売の「学生は発言する」はほぼ全党派の当時のリーダーが方針を語っていて良い資料です。もちろんセンセーショナルスティックなものもありましたが、連赤がどう報道されていたかわかります。今日また70年代の分を大量に受け取りました。こちらは当時のJRAやドイツ赤軍、黒い九月などの資料。当時国内で週刊誌にどのように書かれていたのか

読んでみます。

デジカメ歌人、ピンクの佐助のやさしげな花姿、大寒の便りを頂きました。「佐助や樟子の内の話し声」の虚子の一句と共に。梅、とくに佐助は大好きです。佐助の椿の名の由来も。①秀吉の朝鮮戦役に佐助という者がこの椿を持ち帰った。②千利休の同時代人の茶人の名に因む。③ワビスキ（佐好）の転訛）知りました。「枯れ色の背高泡立草が立ち並ぶ消え果て春來川筋の道」こちらはこれからもっと寒くなります。

1月28日 「宝島」はとても読ませる小説でした。沖縄の庶民の「アメリカ」に対する憎悪の情念、そこでどんな支配下に置かれているか、1972年沖縄返還になっても基地・米の支配の変わらなさを知る庶民の感情が巧みに描かれています。物語は「戦果アギヤ」という米軍基地から略奪して貧しい人々に配る義賊的集団の活動などに至る人々の話です。戦争中どんな日にあいて、10歳～13歳で敗戦下に生きてきたか。その4人の主人公たちの活動が、成長に合わせて沖縄返還の72年までを歴史の節目の反米闘争や米兵の犯罪を縦軸にして物語が展開されていくのですが、ミステリーとエンタメでありながら沖縄が被り続けている現実がしっかり描かれていて、面白くてテンポの良い小説です。

Kさん宅にはこんな冬の寒さの中、河原までこのピンクと白の真盛りとの写真を送って下さいました。「今年はもう少しゆっくりと生きたい」とのこと。健康第一で居てほしいです。

1月29日 今日は菜の花3本とピンクのカーネーションが届き喜んでます。菜の花は春のなつかしい匂いです。大寒の房に春です。とくに匂いがリラックスです。今日はコーラスで中島みゆきの「糸」を習いました。若い人は知っていますが、私ははじめてで歌い難いけどいい歌。

首相の施政方針演説も一方的な安倍路線強行のシグナル。厚労省の統計不正も沖縄の辺野古も「モリカケ方式」で職散らしそう。それでも景気拡大が「戦後最長」って、庶民に実感なく円安や株の購入など政府機関の操作の結果でしょう。新年金子兜太が揮毫した「アベ政権を許さない」を再び！

1月30日 ベネズエラでリビアやシリアにかつて行ったように外部の力で政権を打倒しようとする米政権を中心とした動き。国際法「人道介入」として国連決議なしに介入したユーゴ空爆以来、米欧らが標的にした政権つぶしです。その国の政権がひどいとしても合法的政権つぶしは恣意的で必ずより醜い結果を生んでいます。リビアもシリアも。そして非民主的サウジなどは守られるというダブルスタンダード。「人道」の美名をまたもや米は持ち出しているようです。寒中見舞い感謝。Mさん沖縄議会の様子「琉球の自己決定権」の行使にヤマトンチューがどう向き合うのか問われつつ「この国の継続する植民地主義を克服するものとして闘う必要」を実感されています。来週の2月4日「泉水順変義務付け請求訴訟」判決に行かれるとのこと、感謝。よい結果を！ 難しい現司法の日本……ですが、今年もよろしく。

1月31日 早くも1月尽。去年を考えると本当にありがたい環境です。

「季刊アラブ」サウジ特集を興味深く読んでいます。暴政のムハンマド皇太子は、国内では強権と「近代化」で権力を維持しよう、という話が多いですね。でもその反対に、フェイサル王も暗殺された国だから、という意見も。オバマ政権時代だったら庇護されず、危ういところですが、でもやはりムハンマド政治は、これからも矛盾と波乱と中東危機を招来させそうです。

2月5日 春節。今日は曇りつつ晴れの旧正月です。Iさんの便りでは、大阪も冬らしい日が続いて、雪もちらほらもあつたとのこと。桜の木の蕾が、少しピンク色になってきたようです。私は、立春過ぎると、桜の枝全体がえんじ色っぽくなっていくのが好きです。樹液が桜の花を咲かせるために、色素を懸命に生産している命を感じるからです。菜の花、房の花は黄色の小さい花片が散り始めました。

人民新聞の1月25日号を受け取りました。12月下旬に送った私の一文「2019年中東の緊張と混迷の脱却を願って」が載っています。長かった分、編集してスペースに収めてくれました。ちょっと言葉足らずもありますが、よくまとめて



下さってありがとうございます。今後は短くします。深謝！ 明日は「人民新聞がサウジ入国訴訟」ですね。連帯しています。

2月7日 「ブチの大通り121号」受け取りました。ともこ先生は元気で「過ぎゆき・冬」を詠んでおられます。そこから一首。「冰雪をたたく雨しばらく聞きておりいついつとなく過ぎてゆくもの」由紀子さんの帰郷記も楽しみに読んでいます。「女川原発2号機再稼働の是非はみんなで決めよう」の署名は、2か月で宮城県有権者の50分の1（約3.9万人）を大幅に上回る11万3046筆。県議会で条例が可決されるかどうか、これからのハードルとのこと。県民の意志を今後も「ブチの大通り」で知りたいものです。典明先生って、どんなに良い教師だったか、文から各々の言葉で読んでいます。

2月8日 「中東研究」を読んでいます。サウジアラビアの国内分析によると、厳しいワハブ主義を、女性の社会参加や映画の解禁などの、上からの緩和で、ムハンマド皇太子に対する国民の支持は強いよう。すでに、アブドゥラー国王時代の側近、幹部は更迭されていて、力もなさそうでムハンマドは延命しそうです。

ちょうど入れ違いに、Yさんから土曜会報告、米田さんから東大安田講堂での1月12日集会報告。あの落書き、バリケードの安田講堂があんなにきれいだったとは思わなかったとのこと。また、25年前に新潮社から刊行された「全共闘白書」をもう一度、ということで「新・全共闘白書」を今年の9月5日全国全共闘50周年に合わせて刊行したい、とのこと。同封のそのアンケートは、来週になり

そうです。今日は1ページ目しか(信書として)交付されず、2ページ以降は「資料扱い」で一週間後入手になりそうです。ありがとう。

2月9日 雪らしい。でもプラスチック柱しか見えないけど、昭島は降っていないみたい……。都心は、うっすら白い景色とか。雪の少ない今年は、暖冬でしょうか。でも、このあたり八王子も2月から3月初がとっても寒いので、まだ雪が訪れるかもしれません。

2月12日 Mさん、ありがとう。泉水裁判判決の7日の便り、連休で今日の受信となりました。名古屋地裁の様子、とってもよくわかりました。「法廷は1分足らず、あつという間に終わりました。①順変(義務付請求)却下②賠償(22万円棄却)③費用は原告負担と、裁判長は主文だけを述べて、壁の裏へ。ちなみに国側代理人訟務検事は出延せず、空席の法廷でした。予想はしていた

## 「思い出そう！一九六八年を!!」を読んで

「思い出そう！一九六八年を!!—山本義隆と秋田明大の今と昔」(編著者・板坂剛と日大芸術学部OBの会・鹿岩社刊)を読みました。2018年は1968年から50年目、いくつかの特集が組まれています。

「彼ら、は何の為に闘ったのか? “彼ら、=全学共闘会議(略称「全共闘」)に集まった若者たちの役割は何だったのか。 “彼ら、の指導者、山本義隆と秋田明大を比較検証しながら、今だから見えるそれを探ろうとしているのがこの本です。 “彼ら、の末席を汚していた私」が探しているのは、「自分が遭遇したあの劇的な一時期、著者に活気を与えた “時代、の正体である」と著者は記しています。そうか……そうなのだ、日本ではあの時代は「あの劇的な一時期」であり、私の中では決して一時期ではなく、パレスチナ戦場でずっと続いていて今ここに囚われているのだ……と改めて思い至りつつ読みました。

この本の中では、かつての日大全共闘(芸術学部闘争委員会)の中で果敢に闘った著者た

ものの、あまりにあっけない言い渡しに憤りが増します」と。本当に酷い……。この日も傍聴席(46人)は、ほぼ満席。傍聴人38人プラス記者5人だったとのこと。「報告会で山下弁護士から『判決文を読んだわけではないので詳しくはわかりませんが、と前置きして『義務付請求』については『検察官の不作为』なのであるから、刑事訴訟法での『不服申し立て』であると書かれていたそうです。(502条だそうです)それで却下なのだそうです。これは、裁判所として、何故訴訟提起されているのか、全く考慮せず『逃げ』を打っただけだと思います。無責任極まりません』判決内容もひどいものらしいです。すぐ、安田弁護士は泉水さんへの報告面会に行かれたそうです。本当に頭が下がります。泉水さん、もうすぐ3月誕生日です。強い精神の持ち主なので、弁護士とともに「検察官の不作为」への不服申し立て、また闘い抜くでしょう。Mさんたちみんなの支えが力です。ありがとうございます。

### 重信 房子

ちが、山本義隆と秋田明大を軸に68年のあの東大時計台前を万余の学生たちで埋めた11・22や、秋田明大逮捕の69年2月12日、山本義隆逮捕の9月5日など、時代と二人の人物—水と油のような—の比較をしながら闘いの日々を掴みだそうとする内容は興味深いものです。全共闘の人々が好きで感情移入していた「網走番外地」や「昭和戦伝」を含めた文化論も面白く読みました。そして、著者の視線は東大全共闘の1月18日、19日の闘いを経て20日、東大入試中止決定に追い込んだ余勢をかつて、日大の2月の入試を中止させることが出来たはずだととらえ返し、そうすれば68年11・22で提起された「全国学生統一戦線」はより生々しく実現されていただろう。今から思えば千葉動労などと組んで出来たと思うが、当時誰も考えつかなかった……と述懐しています。私もアラブ戦場から日本をみた時、何度も同じような想いで、当時の闘い方(特に党派の)何と直情的で稚拙なやり方だったか……と反省を込めて思うことがありました。私自身のあの時の個人

的体験を思い返せば、69年1月18日19日には東大闘争支援の神田・御茶ノ水、本郷カルチュラン闘争の中にいました。そしてその直後から大量逮捕で東大組めて救援体制に追われていました。それが一段落すると社学同の次の闘いの方向、新入生オルグとか、4・28沖繩闘争へと視点が向けられていって、隣人である日大闘争と共同する視野に欠けていました。それは日大闘争が東大闘争と違って、良くも悪くも党派のコミットメントが少なく、私たちには十分な回路をもちえなかったせいかもしれません。

あの時代日本ばかりか世界も共通していました。西独赤軍のアスリッド・ブロールが当時を回想して、「信じられないだろうが、あの頃世界で一番夢みたいな話は、ロックスターになる事ではなく革命家になることだった」と述べています。この本の著者も、「60年代の若者たちは仕組まれた大人社会の管理に背をむけて、純粋に自分たちの願望と欲望をストレートに表出する行為を望んでいた」と述べているように、全共闘運動は正義性をもってその機会を爆発させたのだと思います。その分、大学当局は体育会や警察と共に運動の合法性を収奪し「犯罪者化」して社会運動の変革の芽を摘もうと潰したのです。

日大の場合は68年9月30日、3万人を超える大衆団交で古田理事会が非を認め、学生の求めた改革案を受け入れると、時の首相佐藤が翌日に学生たちを非難して反転させます。勢いづいた古田理事長らは居直り、逆に秋田明大ら全共闘の学生らに逮捕状を執行しています。同様に、69年安田講堂攻防後の1月20日入試中止を余儀なくされた当局と権力は、同日、山本義隆の合法性を逮捕状で剥奪してしまいました。大衆運動にあっては、指導者への逮捕状は非合法化=「犯罪者化」される中で運動が権力に肉薄しきれず、社会と隔てられると希望のベクトルは奪われます。また、自分の反省を込めて言えば、党派の政治利用主義と急進化がそれに拍車をかけたといえます。全共闘運動は全国連合を結成した69年9月5日、会場に入るところで当日、山本義隆が逮捕されて以降、全国全共闘の流れは、分散、または個別化して力を失っていきました。

でも、全共闘とは何だったのかと問う時、この



本に記された一つの事例に私は、その価値を見ます。かつて日大全共闘として闘った人々の「9・30の会」は、68年9月30日の団交で一度は勝利しながら、政権と結託して居直った理事会に敗北させられた50年前の現実を、「日大アメフト事件」に現れた今の田中理事会体制が同じ体質で温存されてきたことを告発しました。そして2018年6月10日声明で、田中理事長以下全理事の退陣を求めました。あの時代の正義と良識は、闘った人々に中に生き続けていることを証明しており、この本の中に収録されたその声明文を胸熱く読みました。

また、本の中で初代の芸術委行動隊長の岩淵進のことに触れていて、彼を改めて思い出しました。70年、「映画批評」の事務所で椅子に馬乗りになって、高坂さんと花札を何時間も繰り返して、時々放心したように虚空を覗いていた姿です。そんな時、目が合うと「壊れちゃったんだよ」と道化てニッと少し笑い、また花札を切っていた姿。

純粋に立ち向かい、夢の実現に躊躇したものの傷の深さはあの時代の多くの若者の姿だったかもしれないと思います。私の方は海外に出て、あの祭りのような嵐のような全共闘や党派の時代の風のまま闘い、自惚れた「使命感」と人間的日々を主観的にはずっと継続し続けていて、その分私は傷が深いのかもしないと思いつつ1968年を読んでいます。(2018年11月24日記)

## 東大安田講堂 50年

上原教男

1967年1月。明大学費闘争は最終局面を迎えていた。大学当局との度重なる団交は膠着状態となり、全学バリケードストライキも疲労の色が濃くなっていった。入試を目前にした大学当局も焦りが見えはじめ、体育会系右翼学生が不穏な動きを見せていた。

1月29日の「記念館団交」で先に会場を占拠していた体育会系の学生に、三派全学連の他大学の学生も動員して突入し大乱闘になった。たたき出された体育会系は運動部を総動員して、学内に「白色テロル」が吹き荒れた。

2月2日秘かに「暁の調印」といわれた「2・2協定」が学費闘争指導部と大学当局で調印されていた。学内は体育会系の学生に占拠され、機動隊が遠巻きに待機していた。

「2・2協定」は「ボス交」といわれ、明大社学同の「裏切り」とされ、三派全学連の中核派や解放派から、この時ぞとばかりに暴力的制裁を受け、明大社学同はほぼ解体する。

学費闘争指導部は殆ど逃亡してしまい、学内には1、2年生が取り残された。

中央大学に亡命していた明大社学同は、I部のメンバーは主に和泉校舎へ帰り、II部の現思研を中心としたメンバーは本校の学生会館へ戻った。少しずつ学生が集まり始め明大社学同の再建が始まった。

「2・2協定」の誤りを認め、何よりも党派の利害や政治力学に振り回されない学生運動を構築したいと考えた。緩やかなグループだった「現代思想研究会」は明大社学同の再建の一翼を担いつつ、新しい学生運動のスタイルを模索していくことになる。

4月になって新入生が入ってくれば一挙に展望が開けると確信して「2・2協定」の冬を耐えた。

そして4月続々と新入生が自治会室や「現思研」のボックスに集まってきた。

I部では2年生のR介君が中執委員長に選ばれ着々と明大社学同は再建されていった。

II部の「現思研」では、自治会執行部のヘゲモ

ニーの奪取とか、多党派工作にあまり関心を持たず、ゆるやかな運動体として、その後の67年「10・8羽田闘争」「11・12第二次羽田闘争」68年の「エンブラ闘争」「王子野戦病院闘争」「三里塚闘争」の先頭を走り続けた。68年8月の「国際反戦集会」の事務局の一端を担った。しかし68年「10・21国際反戦デー」の防衛庁闘争、11・17首相官邸闘争で立ち止まることになる。防衛庁ではなく新宿駅で米軍タンク車を止めるべきではないかと考えた。あとで知るのだが防衛庁か新宿かはブント中央でも議論になったが、当時ブントのヘゲモニーを握りつつあった関西ブント系の「中央権力闘争」路線が押し通されることになる。

10・21防衛庁闘争も、11・17首相官邸闘争も先頭へ出ず、「現思研」は一人も逮捕者を出さなかった。

分からない時は立ち止まる。ブント中央は大衆運動を置き去りにして、党派の運動へと傾斜していくように思えた。「中央権力闘争」がそれだ。あと追いで考えると、それが「7・6」「赤軍派」「連合赤軍」へと収斂していったのだと思う。その頃はよく分からなかった。しかし何となくおかしいと思った。居心地が悪かった。面白くなかった。

友人の下宿に転がり込んで、ボーッとしていた。

12月になって、東大闘争が入試を控えて緊迫の度を増しつつあった。明大学費闘争と同じような山場を迎えていた。行かなくてはと思った。ここでボーッとしているわけにはいかない。

身支度をして、電車に乗って本郷の東大キャンパスへ行った。全都全共闘集会。社学同の部隊と合流した。現思研の仲間たちもいた。

東大全共闘は入試阻止。徹底抗戦でバリケードを死守する方針を提起した。その覚悟やよし。

社学同は全国の学生を選抜動員し、安田講堂の三階の防衛を担当することになる。守備隊長は明大社学同のR介君だ。彼は「2・2協定」の時はまだ1年生だったが、明大社学同への批判と理不尽な暴力に耐え、中執委員長として明大社学同を再建し、先頭に立って闘ってきた。彼が守備隊長

を引き受けた時心するものがあったのだと思う。

機動隊導入のXデーは刻々と迫りつつあった。大量の敷石ブロックが運び込まれた。夜になると火焰ピンが運び込まれた。灯油とガソリンの混合液のピンに塩素酸カリを染み込ませた紙を巻き、塩酸の試験管を巻き付けた触発性の火焰ピンで、投げつけてピンと試験管が割れると発火する。これは優れもので威力を発揮することになる。学生の誰かが弾いていた講堂の立派なグランドピアノもバリケードの一部になってしまった。

1月18日払暁。白々と寒い朝が明けると、安田講堂はピッシリと機動隊に包囲され、その後ろに放水車、大型の消防車が控えていた。「学生諸君、出てきなさい。」加藤学長の声が途切れ途切れに聞こえた。学生たちは火焰ピンを握りしめて身を潜めていた。

機動隊が動き出した。チェーンソーやハンマーで正面のバリケードの撤去にとりかかった。三階のテラスからは真下に見える。正確に機動隊を目がけて、最初の一発目の火焰ピンが投げられた。オレンジ色の炎が立ち上がり、次々と火焰ピンが投げられ火の海となった。機動隊は一斉に退却した。放水車が前進して放水を始めた。高圧放水でまともに当たると体ごと飛ばされてしまう。機動隊は入れ代わり立ち代わり正面のバリケードにとりついてきた。間断なく催涙弾を撃ってきた。直撃を狙って撃っており、体を大きく出すと何発もが身をかすめた。上空のヘリコプターがドラム缶をぶら下げてきた。山林火災の時のように水をぶちまけた。ところがそれは水ではなく催涙液で、濡れた服から蒸散する催涙ガスで涙が出て皮膚はヒリヒリと痛んだ。敷石ブロックを足元で割りながら雨アラレと投げつけた。一進一退の攻防が続いた。一階の正面のバリケードは破られたが、機動隊はそれ以上には進めず、この日は日没休戦となった。

明治や中大を出発したデモ隊が本郷へ向かっているとの報告があり歓声が上がる。放水と催涙ガスと寒さに疲れ切っているはずなのに、みんな元気だ。空腹だったはずなのに何を食べたのか覚えていない。交代で見張りを立てて仮眠することになったが、冷たい放水は一晩中浴びせられていた。

二日目の朝、機動隊は投石や火焰ピンから身を



守るのにベニヤ板のトンネルをつくり、ジュラルミンの盾をかぶせて講堂に突入してきた。火焰ピンも石も少なくなってきたので、よく狙って正確に命中させるように投げた。

二階が突破され、次々と学生が連行された。三階へは狭いラセン階段が上がってくるしかなく、階段はピッシリとバリケードで埋められていた。投げつける物が無くなっていった。火焰ピンを投げたのだから消火器も投げてやれと身を乗り出して投げつけると、後日バッチリ検査で写真を見せられた。

機動隊はラセン階段のバリケードを手渡して撤去しつつ上がってくる様子だった。

守備隊長のR介君が抵抗はここまでと宣言した。よく頑張った。何の悔いもなかった。みんな晴々と肩を組んでインターを歌った。

ドンドン、バリバリとバリケードを壊しながら機動隊が上がってくる。

放水も止んでいた。フとこのまま終わってしまうのは口惜しいと思った。社学同の意地を見せてやろうと思った。屋上への階段を上った。静まりかえった構内にサーチライトが時計台を照らしていた。

共産同都委員会の赤旗があった。一段高いところへ上がって旗を大きく振った。

オーイ、みんな見ているか。オレたちは闘った。オレたちは負けなかった。旗を振り続けた。明大社学同の意地もあった。「2・2協定」から走り続けてきた集大成でもあった。お茶ノ木の方角が明るく見えたように思った。

屋上に女子学生が一人かけ上がってきて、追い

かけて機動隊がドカドカと上がってきた。女子学生をかばった為に機動隊にボコボコに殴られ蹴とばされて逮捕された。

護送車に乗せられ、都内の留置場は満パイとかで八王子署まで行くことになった。梶がけの護送車は風が吹き抜け、びしょ濡れの服は凍えるように寒かった。

八王子署で年配の警察官がダルマストーブの周りに椅子を並べて暖をとらせてくれた。濡れた服から湯気が上がると、催涙ガスの臭いがして目が痛くなった。

数日して小菅刑務所に移監された。古色蒼然とした古い刑務所で、窓のすき間から雪が吹き込むひどいところだった。

しかし学生たちは元気だ。「<sup>つうせい</sup>通声」といって、懲罰の対象になるのだが、そんなお構いなしに窓越しに声を掛け合った。「〇〇大学の××です」「オー、がんばれよー」いつもにぎやかだった。適当な理由をつけて医務へ行くと顔を合わすこともできた。医務にはどういう訳かいつも金嬉老さんがいて、「先生、学生にはええ葉出してやって下

さい。」「オイ、学生頑張れよ」と大声で励まされた。

夏前になるとポツポツと保釈許可が出始める。「〇〇大学××保釈になります」「オー、異議なし！頑張れよー」あちこちで歓声が挙がった。誰もへこたれず、希望と闘志にあふれていた。底抜けに明るく、牧歌的な学生運動の時代は突然に終わる。「7・6事件」が起きる。赤軍派が登場する。「連合赤軍」までわずか3年。

(2019・2・16)



#### 後記

今回も前号に続き50年前の69年の東大安田講堂闘争を振り返る活動報告を上原さんに書いていただきました。どうもありがとうございました。当時、講堂の屋上に追い詰められた学生たちの逃げ場のない闘いを息をのむ思いで凝視しながら、彼らの論理から言えば、講堂の屋上から散っていくのではないか。人々の間に、恐れと同時にそれを期待するような思いがありました。今から思うと無責任でしかありませんが、打算のない彼らの姿に夢を託した側面があったように思います。

12月17日の日誌に重信さんが収監されている昭島の東日本矯正医療センターセンターの実情が詳しく述べられています。気を付けて読んでください。新しい病舎で、医療機器も最新のもので、空調が整い、寒さや暑さから守られていること、「建物内の環境は驚くほど快適に改善されている」そうで、施設が清潔に維持され、食事もおもしろそうです。ただし管理は厳しく、私どもの交流に様々な制約があって、他より時間がかかってしまいます。外の自然に接することが殆どできなかつたり、規律は厳しそうです。ただし、他の刑務所と比べ物にならないくらい快適そうです。日本全国の刑務所も少なくともこうした水準に改められるよう祈ります。(Y)

重信房子さんへの郵送アドレス 〒196-0035 東京都昭島市もくせいの杜2-1-9 重信房子

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

《正誤》表

第 145 号

- ①(表紙) 上原敦夫→上原敦男
- ②2P上から5行目 抵抗運動をしている→抵抗運動を強いられている
- ③3P上から13行目 アサド打倒に荷ねと武器→打倒に金と武器
- ④3P上から14行目 アラブ諸国を統括する英知も能力も(挿入)
- ⑤3P上から18行目 対イスラエル問題は崩れ→対イスラエル同盟は崩れ
- ⑥3P下から11行目 イスラエルがパレスチナに  
→イスラエルがアラブ・パレスチナに
- ⑦4P(短歌)左から4首目 ~旧友らの強気意志あり→旧友らの強き意志あり
- ⑧6P(11/25)上から4行目 ~許可を得て、載せ  
→許可を得て、文昭さんの絵を載せ(挿入)
- ⑨8P(12/17)左下から12行~13行目 「その後大腸癌で 2016 年~手術をして  
います」→下から16行目「正常化しています」の後に(挿入)  
~そして、2018~
- ⑩9P左上から18行目 ~担当医が主張→担当医が出張~
- ⑪17P右下から2行目 傷が深いのかも→傷が深くないのかも